小学校特別支援学級における音楽を中心とした「自立活動」の取り組み

和歌山大学教育学部　　上野 智子（研究代表）、菅 道子、山﨑 由可里
和歌山市立加太小学校　　龍神 美紅、片山 明満、髙井 悦子

1. 研究の趣旨

本研究は、大学教員と公立小学校教員との連携による音楽を活用した「自立活動」の実践を通して、特別支援教育において「音楽すること」の可能性や支援の在り方を解明することを目的としている。2023（令和 5）年度は共同研究の 2 年目であるが、特別支援学級を担任する教員が昨年度と異なるため、改めて、①音楽を活用した「自立活動」について大学教員と小学校教員の間で共通認識を持つこと、②児童の実態を踏まえた上で授業を考案・実践し、検討を行うことを中心に取り組んだ。

2. 研究の経過

研究経過を以下に示す（表 1)。

表 1　2023(R5)年度の研究経過

回	月日	内容
第 1 回	4 月 28 日	【カンファレンス / オンライン】 ・児童の実態についての情報共有 ・今年度の研究計画について
第 2 回	6 月 26 日	【カンファレンス / 対面】 ・研究の趣旨説明 ・音楽を活用した「自立活動」のこれまでの取り組みについて ・児童の実態についての情報共有 ・今年度の研究計画について
第 3 回	9 月 6 日	【カンファレンス / オンライン】 ・第 1 回 授業実践についての打ち合わせ
第 4 回	9 月 8 日	【第 1 回　授業実践】 ～みんなと いっしょに あきの おんがくを たのしもう～
第 5 回	10 月 19 日	【カンファレンス / 対面】 ・第 2 回 授業実践についての打ち合わせ
第 6 回	10 月 23 日	【第 2 回　授業実践】 ～あきを さがしにいく ツアー～
第 7 回	12 月 18 日	【第 3 回　授業実践】 ～手形アートで 音楽づくりをしよう～
第 8 回	1 月 5 日	【カンファレンス / オンライン】 ・今年度の実践の振り返り

3. 児童の実態と授業づくり

(1)児童の実態

特別支援学級は、2 学級（知的障害…3 年生 1 名・6 年生 1 名、情緒障害…2 年生 1 名・3 年生 1 名・4 年生 1 名・5 年生 1 名)。「自立活動」については、身体を使ったレクリエーションやソーシャルスキルトレーニングなどを、2 学級合同で行っている。児童たちは教員たちとの信頼関係も構築されており、関係も良好である。一方、それぞれ、新しい環境に戸惑ってしまう、自らの気持ちや考えを表現して相手に伝えることが苦手、こだわりから心理的に不安定になることがある等、個別の課題を抱えている。また、今年度特別支援

学級に入級した児童２名いることもあってか、昨年度とは異なった、新たな環境の下、個々の発達の差も相まって、一緒に何らかの活動をすることが難しい場面がある。そのようなことから、心理的な安定、他者とコミュニケーションをとることや関係性を築くことが全体的な課題となっている。

(2)音楽を活用した「自立活動」の授業づくりと「自立活動」の内容項目との関連

上述の児童の実態を踏まえ、計 3 回の授業を行った。それぞれ鑑賞や歌唱、身体表現、楽器の演奏（即興演奏含む）を行うことにした。また、音楽活動の中には、児童同士が交流できるような内容を含めた。加えて、本実践の目標および活動内容と「自立活動」の内容項目との関連についても整理した（表 2)。それぞれの授業により目標が設定され、それに応じて「自立活動」の内容項目も異なる。具体的な活動の概要は表２の通りである。

表 2　目標および活動内容と「自立活動」の内容項目との関連

目標に該当する 「自立活動」の主な内容区分	目標に該当する「自立活動」の主な内容項目
2. 心理的な安定	①情緒の安定
3. 人間関係の形成	①他者との関わりの基礎 ③自己の理解と行動の調整 ④集団参加への基礎
4. 環境の把握	④感覚を統合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること
5. 身体の動き	①姿勢と運動・動作の基本技能
6. コミュニケーション	⑤状況に応じたコミュニケーション

4. 授業実践の概要

(1)第１回

〈活動のテーマとめあて〉～みんなと いっしょに あきの おんがくを たのしもう～

プログラム 《》使用する楽曲	★該当する「自立活動」の内容区分と項目 学習活動
1. ①あいさつ 《こんにちは！》 １人ずつうたおう ②《音楽のおもちつき》	★3① ・歌に合わせて一人ずつ挨拶をする。 ・指導者に合わせて太鼓を叩いたり、自分の思うように叩いたりする。
2. やさしく歌おう 《小さな畑》 《加太小の畑》	★3③④ 歌唱と手遊び ・大きさの違い（概念）を感じ取って表現する ・作ってみたい野菜、果物を表現できる。
3. クイズに答えながら、秋を表現しよう 《あきといえば》	★4④、5① クイズに答えながら、秋を表現する。 ・もみじ→≪もみじ≫歌・身体表現 ・とんぼ→《とんぼのめがね》歌 ・どんぐり→合奏 ・きのこ→《きのこ》歌・身体表現 ・さんま→食べる真似 ・さつまいも→《やきいもグーチーパー》手遊び
4. よくきいてやさしく鳴らそう	★2①、6⑤

《ペンタス》	・楽器を用いて、音楽に合わせて楽器を鳴らす。
5. ふりかえり	・今日の活動を振り返る。
6. おわりのうた 《Thank you for the Music》	・みんなで歌いながら、名前を呼ばれるとさようならの挨拶をする。

(2)第 2 回

〈活動のテーマとめあて〉～あきを さがしにいく ツアー～

プログラム 《》使用する楽曲	★該当する「自立活動」の内容区分と項目 学習活動
1. あいさつ　《こんにちは》	★3① ・歌に合わせて一人ずつ挨拶をする。
2. めあての確認： ・みんなといっしょに秋をさがし、音楽ツアーを楽しもう！	・今日の活動の見通しをもつ。
3. 聴いてみよう（鑑賞） 《里の秋》Fl	★3①③ ・耳を澄ませてよく聴く。
4. リズムリレー あきといえば何がある？	★3①③④　5① ・ホワイトボードに貼られた秋の風物詩を選び、その風物詩を表す音をつくり、楽器や動作で表す。
5. みんなで歌っておどろう《きのこ》	★4④ 5① ・音楽に合わせて動作を真似っこする。
6. 秋の虫のカノン	★3①④　5① ・パートに分かれて合奏する。
7. 秋の風をふかせよう 《おおかぜこい》	★2①　5① ・スパークハーフを使ってリラックスする。 ・トーンチャイムをランダムに鳴らす。
8. おわりのうた 《Thank you for the Music》	・みんなで歌いながら、名前を呼ばれるとさようならの挨拶をする。

(3) 第 3 回

プログラム 《》使用する楽曲	★該当する「自立活動」の内容区分と項目 学習活動
1. あいさつ　《こんにちは》	★3① ・歌に合わせて一人ずつ挨拶をする。
2. めあての確認： ・あおぞら学級の手形アートを楽ふにして 音楽をつくろう。	・今日の活動の見通しをもつ。
3. 聴いてみよう（鑑賞） 《ジングルベル》（ジャズバージョン）	★3①③ ・耳を澄ませてよく聴く。
4. リズムリレー	★6② ・描いた絵をみんなにどんなものか紹介してもらう。 ・絵に合う楽器を選び、擬音化したり、身体表現でも試す。
5. おわりのうた 《Thank you for the Music》	・みんなで歌いながら、名前を呼ばれるとさようならの挨拶をする。

〈活動のテーマとめあて〉～手形アートで 音楽づくりをしよう～

5. 授業の省察

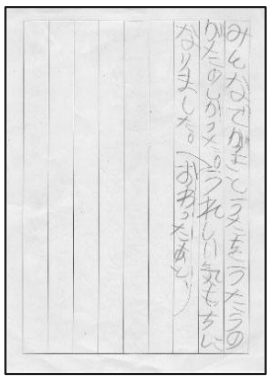
①第 1 回について

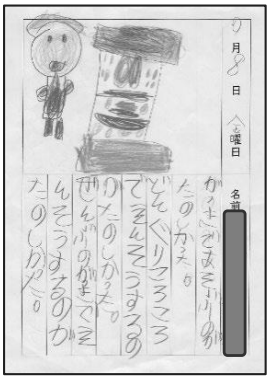
どの児童も期待感をもって活動に取り組んでいた。前年度は緊張していた児童も、今回活動の初めから安心感を持って取り組むことができていたように見える。その要因は、様々

な活動（楽器、プレイクロスなど）が用意されていて、個々が活躍できる場面が多くあったためと思われる。

《どんぐりころころ》をみんなで合奏する

児童の感想①



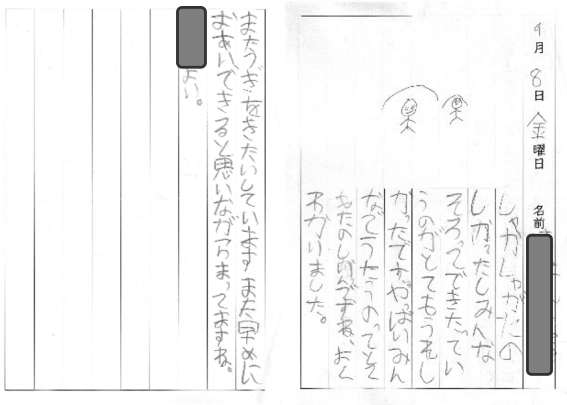


児童の感想②

②第 2 回について

「秋と言えば…」について、掲示も手がかりにしながら、それぞれの「秋」を発表し、ダンスや即興表現を楽しむことができた。また、最後には個々に楽器を選び、秋の合奏をみんなで楽しんだり、プレイクロスを楽しんだりすることができた。

《おおかぜこい》で プレイクロスを楽しむ



児童の感想③

③第 3 回について

児童の欠席が半数おり、全体として、活動の理解への困難さも見られた。楽器を選ぶところでは、絵に合うものをなかなか探し出せず、楽器そのものの音を楽しもうとする姿が見られた。児童にとって、音楽と絵が結びついていたのか、達成感をもって取り組むことができたのかというところに課題が残った。

絵に合う楽器を選ぶ

「指揮者」となり、

指示を出す

手形アート①

手形アート②

6. 総括と次年度への課題

今年度は、共同研究 2 年目だったこともあってか、児童たちは、昨年度よりも徐々にリラックスして活動に参加できるようになった。そして、様々な場面で創造的な表現を創り出していた。その中で、良かった点を三点挙げる。

一点目は、普段の自立活動ではなかなか主体性を発揮できない児童たちが、音楽を取り入れた内容を設定することで、積極的に活動できた点である。普段の自立活動では、個々の発達に応じた様々な活動を計画し、展開していくことが難しい。その中で、和歌山大学の音楽や特別支援教育の専門の教員が音楽を通して関わることで、児童自身が新たな活動や発見、気づきに出合うことができ、またその姿を担任が見ることで、成長や課題を感じ取ることができた。

二点目は、児童の実態を踏まえ、「自立活動」の内容や指導について再考できた点である。例えば、同じコミュニケーションにおける課題があったとするならば、音楽はとても有効な手段の一つであった。太鼓を通じて他者との応答関係が生まれたり、自己を調整して集中したりする姿が見られた。

三点目は、児童、小学校教員、保護者が期待感をもって臨めた点である。児童からは活動中や活動後の感想に「またやってみたい」「またきてほしい」などの言葉があり、活動した後も、本授業で用いた歌を口ずさむ姿が見られた。また、保護者には、学級通信を通して、和歌山大学との本活動の子どもの様子を伝えていた。保護者からも、「次の〇〇の活動はどんなふうにするのだろう」と関心を持ち、担任とのやりとりがあった。

一方で、課題も残った。

第一に、児童の情報共有と、個々のねらいに即して活動を計画、展開していくことである。特に、第 3 回の授業実践では、活動の内容を理解できていない児童もおり、個々それぞれ違った方向に関心と意識が向いており、2 クラス合同で活動を行うことの強みが十分発揮できなかった。そのため、可能な限り、今後、児童の情報を相互に共有していくことが必要である。

第二に、活動のコンセプトについてである。コンセプトは、活動の目的や考え方を共有したり、その時期や児童の実態を踏まえた上で活動のある程度の方向付けをしたりするものとして非常に大切である。しかし、コンセプトが先行し、児童の表現要求を十分に受け止め、促すことができていたのか、というところに課題が残る。個の自由な表現を促すためのコンセプトと活動内容について、今後とも考えていきたい。

以上を踏まえつつ、児童たちの実態に即した音楽を活用した「自立活動」の考案・実践について大学と公立小学校が協働しながら引き続き研究をすすめていきたい。